ラフモノフ・シュフロブショー研究員（タジキスタン）

私は、2001年からタジキスタン共和国の緊急事態省に、コンピュータ主任管理者として勤務しています。本来の業務は、災害状況に関する情報の収集や、国の災害状況データベースを作成することです。

タジキスタン共和国非常事態省は1998年に設立されました。非常事態省では、タジキスタンにおける自然災害発生や動乱など非常事態の際の自国民と国土を保護する政策決定権を有し、またそうした非常事態の事前予防や国家活動の調整を行います。同省はまた、非常時には「救援センター」として機能し、捜索救助活動を行うため、市民防衛軍の機能をもち必要な設備機器や技術を備えています。

タジキスタンの国土面積の93%は山岳地帯で、山岳氷河は川の水源となっている一方で、その地理的条件により、地震や洪水の被害を受けやすい国となっています。とりわけ、1911年のサレ地震では、大規模な落石が発生し、ウソイ村をのみ込み、タジキスタンほかウズベキスタン、トルクメニスタン、アフガニスタンの計4カ国にわたり500万人に多大な影響を及ぼしました。

ADRCの客員研究員として来日して5ヶ月がすぎ、今月上旬で帰国しますが、これまでJICAの防災行政管理者セミナーに参加させていただき、また日本にある主要な防災関連の事務所や施設を訪問させていただきました。日本滞在中は、防災に関する情報を多く収集できたと思っています。

本国に帰国した後は、地震や洪水、地滑り、緊急援助をテーマにした防災セミナーを開催し、災害関連のデータブックや災害による人的被害をどう抑えるかというようなハウツー本作りに携わっていきたいと思います。